

3年生激励の言葉

皆さんは、いよいよ明日からセンター試験を受けます。緊張もするでしょうし、気持ちも焦るでしょう。「普段力」「平常心」とか言われても、それを保てないから困っているのにと
思う人もいるでしょう。

私にも高校3年生の時もあり、大学受験もしました。しかし、少し胸を張れないのは、実はセンター試験を受けてないからです。共通一次試験が導入される前年の受験生です。昭和53年の2月、3月の受験生です。当時は、一期校、二期校の時代で、国公立を2回受けることができる時代でした。しかし、共に一発勝負です。よって、すべてが賭けのようなものです。たまたま自分に合う問題かそうでないか。つまり、まだ何とかなる分野が出るか、まったくお手上げの分野が出るかで合否は大きく左右されました。もちろん赤本を買って、傾向と対策を考え、準備はしましたが。このような前置きでお話ししたいことが二つあります。

一つ目は、皆さんは、センター試験と次の2次試験の合計で勝負できるということです。だから、明日からのセンターが「天下分け目の戦いだ」などと気負うことはないというこ

とです。一発勝負ではありません。前期・後期あるいは中期などを含めば、また私学も入れれば、数ある戦いの序盤戦に過ぎないのだから、小手調べくらいの気持ちで臨むべきです。前哨戦というところです。

二つ目は、最後まで頑張ったらいいことがあるということです。当時は旅行業者の斡旋で、数人で一部屋に泊まる形で受験に行っていました。中には東京の私大が合格したのもう国立はいいやという人もいました。私は、最後の一あがきと思って、試験当日の朝、早く目が覚めたので、和室から出た、入り口の前の板張りのところで、化学の問題を数問解きました。それが当日の試験に出たのです。苦手な化学が一問でも多くできたからか、その大学には合格しました。ぎりぎりまで、「人事を尽くし、天命を待つ」ということです。努力する者に、天はきっとどこかで手を差し伸べてくれる。今でも、そう信じています。

最後に、受験全体に関わることをお話ししたいと思います。今皆さんは、第一志望を目標に勉強を頑張ってきました。明日は、前哨戦です。二日目も試験はあります。一つ一つの試験の手ごたえに一喜一憂しないことです。試験の結果が少々

良かろうが、悪かろうが、努力してきた人、頑張ってきた人は、「必ず、その人にとって一番ふさわしいところに落ち着く」ものです。これまた、天の導きがあって、その人が一生を送るうえで、その人にとっていいように運命が開けるものです。これは、長いこと教員をしてきて、数多くの生徒の成長を見てきて、確信が持てる「真実」です。皆さんは、最もいいように導かれるから、安心して明日からの受験に臨んでください。私からの提案、「すべて天に委ねよう、運命に委ねよう」です。つまり、「人事を尽くして、天命を待つ」です。

今日も普段通りに軽く勉強して、御飯を食べて、普段通りに眠りについてください。その時の合言葉、「人事を尽くして天命を待つ」。「人天」「人天」……。